



No.161

2023.11.27

兵庫県立神戸商業高校

図書館

新着図書紹介

後期図書委員会活動が始まりました。図書委員による新着本やおすすめ本の紹介をポスターやおたよりでお知らせする予定です。読んでみようかなと思ったり、気になる本があれば、図書館へ見に来てください。



『あなたが誰かを殺した』 東野 圭吾【著】

閑静な別荘地で起きた連続殺人事件。愛する家族が奪われたのは偶然か、必然か。残された人々は真相を知るために「検証会」に集う。最初から最後までずっと「面白い！」至高のミステリー体験。

『ボーダー ー移民と難民』 佐々 涼子【著】

ウクライナ難民で始まった話ではない。ミャンマー、スリランカ、イラン、アフガニスタン、そしてアフリカの国々から……。命からがら、日本にたどり着いた人々を、私たちは、どう受け入れてきたのか？

『世界がわかる資源の話』 鎌田 浩毅【著】

高すぎる光熱費のからくりは何？ロシアの天然ガスはどれくらい重要？などあらゆるテクノロジーや世界情勢を左右する資源について、京都大学名誉教授がわかりやすく解説する。

『ロバのスーコと旅をする』 高田 晃太郎【著】

新聞記者の職を辞し、イラン、トルコ、モロッコでロバと歩いた旅路がSNSで一躍話題。ロバと歩くことで、見える世界があるー。待望の書籍化！

『まちがえる脳』 櫻井 芳雄【著】

人はまちがえる。それは、どんなにがんばっても、脳がまちがいを生み出すような情報処理を行っているから。しかし脳がまちがえるからこそ、わたしたちは新たなアイデアを創造し、高次機能を実現し、損傷から回復する。そのような脳の実態と特性を、最新の研究成果をふまえて解説。

『自衛隊の闇組織ー秘密情報部隊「別班」の正体』

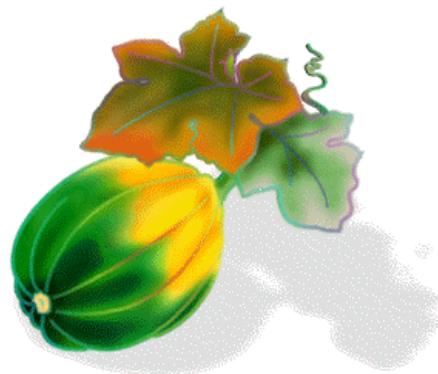
石井 暁【著】

身分を偽装した自衛官が国内外でスパイ活動を行う、陸上自衛隊の非公然秘密情報部隊「別班」に迫った日本で唯一の書！

『「どうせ無理」と思っている君へ

ー本当の自信の増やししかた』 植松 努【著】

従業員20人の町工場でロケットを作り宇宙開発の夢を追いつける著者が、「どうせ無理」という呪文に負けない方法を公開。



『青春のスケッチブック ー続・『クマのプーさん』挿絵画家が描くヴィクトリア朝』

アーネスト・ハワード・シェパード【著】

『クマのプーさん』のあの姿を生み出した挿絵画家が、画家を目指して奮闘し、仲間たちと送った青春の日々を、みずみずしくつづる自伝エッセイ。



『百鬼園事件帖』

三上 延【著】

舞台は昭和初頭の神楽坂。大学生・甘木は、行きつけのカフェで偏屈教授の内田榮造先生と親しくなる。屁理屈と借金の大名人である先生は、内田百間という作家でもあり、夏目漱石や芥川龍之介とも交流があったらしい。先生と行動をとるうちに、甘木は徐々に常識では説明のつかない怪現象に巻き込まれるようになる。

進路関係

『社会科学系 小論文頻出テーマ16—書き方のコツがよくわかる (改訂版)』

石関 直子【著】

社会科学系小論文対策の定番書。新傾向対応版！定番テーマと時事テーマを厳選。新型コロナウイルス感染症・人口減少社会の話題もしっかりカバー。

『学際系 小論文頻出テーマ20—書き方のコツがよくわかる』

近年大人気の学際系学部・系統の対策。「リベラル・アーツ?」「学際系学部って?」「新しい名前の学部、どうしてこんなに増えたの?」などテーマ1では学際系学部の存在意義から解説。

『人文・教育系 小論文頻出テーマ20—書き方のコツがよくわかる (改訂版)』

日本の社会問題、日本人のあり方、教育問題、国際関係、といったあらゆる問題に対して解説。

『採点者の心をつかむ合格する小論文のネタ 社会科学編』

小論文を書くために、キーワードを覚える必要があることが言うまでもありません。しかし覚えるだけでは不十分。覚えた上で、自由自在に使いこなせるようになることが重要。

【その他の新着図書】

囚人服のメロスたち—関東大震災と二十四時間の解放	坂本 敏夫	文学
可燃物	米澤 穂信	文学
言語の本質—ことばはどう生まれ、進化したか	今井 むつみ /秋田 喜美	言語
シューンドロップ	夢野 寧子	文学
ハンチバック	市川 沙央	文学
トランスジェンダー入門	周司 あきら	社会
何度でも作りたいクッキーと焼き菓子	すみれ	料理
「リーダーシップ基礎」入門	田村 次朗	社会
女性不況サバイバル	竹信 三恵子	社会
医療と介護の法律入門	児玉 安司	医学
扉をひらく哲学—人生の鍵は古典のなかにある	中島 隆博 ほか	哲学
ボクの故郷は戦場になった - 樺太の戦争、そしてウクライナへ	重延浩	歴史
在来植物の多様性がカギになる	根本 正之	植物学

ぶらり選書 2 学年 廣瀬先生

『夜のピクニック』恩田 陸 著

好きな本は何かのきっかけでまた読みたくなくて、何度か読み返します。読むとやはり面白く、心が満たされます。「夜のピクニック」はその中の1冊です。

繋ぎ留めておきたい、この時間を。

小さな賭けを胸に秘め、貴子は高校生活最後のイベント歩行祭にのぞむ。誰にも言えない秘密を清算するために――。

高校生活最後を飾るイベント「歩行祭」。それは全校生徒が夜を徹して80キロ歩き通すという、北高の伝統行事だった。甲田貴子は密かな誓いを胸に抱いて、歩行祭にのぞんだ。三年間、誰にも言えなかった秘密を清算するために――。学校生活の思い出や卒業後の夢など語らいつつ、親友たちと歩きながらも、貴子だけは、小さな賭けに胸を焦がしていた。

高校生がみんな夜歩く。たったそれだけのシンプルな行事ですが、非常に濃厚で、読んでいくうちに、登場人物たちと一緒に本当に80キロの道のりを夜通し歩いているような感覚になります。その時のその場でしか味わえない空間、経験があるということ、今(高校生活)を大切にしようと思うきっかけに生まれたいと思います。ぜひ読んでみてください。